

主催者あいさつ

豊橋鉄道株式会社代表取締役社長 小笠原 敏彦

司会

それでは皆様、大変お待たせいたしました。本日はお忙しい中、多くの方々にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより、タウンミーティング「豊橋のまちづくりと公共交通を考える」を開催させていただきます。

開会にあたりまして、今回のタウンミーティングの主催者でございます。豊橋鉄道株式会社代表取締役社長小笠原俊彦よりご挨拶を申し上げます。



小笠原

ご紹介をいただきました、豊橋鉄道の小笠原でございます。本日は本当に多くの皆様にご来場いただき誠にありがとうございます。高い席からではございますが一言お礼のご挨拶を申し上げたいと存じます。私ども豊橋鉄道グループは今年3月に創立100周年を迎えました。今日までお支えいただいた地域の皆様に改めて深く感謝を申し上げたいと存じます。私どもはこれまで地域の移動の維持に使命感を持って取り組んでまいりましたが、コロナ禍で様々な問題に直面をいたしまして、今後も地域の足を守り続けられるか、あるいは発展させていけるかどうかというところで、非常に現状のままでは厳しいということを感じております。

国もですね、全国的な利用者の減少という負の連鎖あるいはサービスの低下に対する対策を現在推進している「公共交通のR・デザイン」という取り組みにおいてですね、まちづくり、地域づくりと公共交通を連携させて融合させていくという政策を打ち出しております。

そこで現在動きつつある豊橋におけるまちなか活性化の取り組み、そして100周年をきっかけに今後の未来像を描こうとしている私どもがですね、まちづくりという共通のテーマで、この街の未来を共有したいという思いからこのタウンミーティングを開催することにいたしました。ご講演をいただきます、前富山市長の森先生におかれましては、本日はご多忙中富山からお越しいただきました。誠にありがとうございます。まちづくりの先進的な事例として、豊橋市と類似しております放射線状の交通市街地を有する富山市のまちづくり、その取り組みのエッセンスや思い、エピソードなどをご紹介いただきながら、豊橋へのメッセージをいただければと思っております。

次に弊社と連携協定を結ばせていただいております、豊橋技術科学大学の松尾准教授には豊橋の交通に関する現状、そして未来への提言をいただきます。その後、休憩を挟みまして最後のパネルディスカッションでは、豊橋商工会議所の会頭で、豊橋まちなか未来会議の会長である神野会長、豊橋市長の浅井市長、それから豊橋市電を愛する会の高須会長にもご登壇をいただきまして、豊橋の街の未来と公共交通のあり方について、大所高所からご意見をいただき、さらに広く議論が深まればと思っております。

限られた時間ではございますが、本日ご出席の皆様にとっても、何らかの気づきが得られる機会になればと思っております。それでは早速始めさせていただきます。本日は皆様どうぞよろしくご挨拶申し上げます。